

<全体分析>

試験時間 90分

<p><b>解答形式</b> マーク式 40問(語句選択26問 正誤判定10問 年代整序4問) 論述2問 (200字、280字)</p> <p><b>分量・難易(前年比較)</b> 分量 (減少・やや減少・<b>変化なし</b>・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・<b>変化なし</b>・やや難化・難化) 大問数4題に変化はないが、小問数は論述を含めて50問から42問に減少した。語句選択問題が3問、正誤判定問題が6問減少した。設問数は減少しているが、論述が2問出題されているので、時間的な余裕はなかっただろう。</p> <p><b>出題の特徴や昨年との変更点</b> 史料・正誤判定問題が多いことに特徴がある。また、本年度は昨年度なかった古代からの出題と論述が2問出題された。試験時間は60分から90分に変更された。</p> <p><b>新課程を踏まえた出題</b> 歴史総合に関する問題は1問のみだった。</p> <p><b>その他トピックス</b> 論述は慶應義塾大学のサンプル問題では1題(近代)だったが、古代と近世から2問(200字・280字)出題された。</p>
---

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 年代整序	日本の領土問題	(3)(4)はやや難。(7)(8)は史料を見ていれば正解できただろう。(11)(12)は「先島諸島」を知らなくても消去法で正解したい。(13)(14)は正解したいが、定番のキーワードがなかったのが難しかったかもしれない。(15)(16)は『帝国主義下の台湾』の著書、植民政策の分析から解答するのでやや難。(17)(18)は慶應義塾大学志望者ならば正解したい。(19)(20)、(21)(22)は難。(25)(26)は歴史総合の範囲ではあったが、語群を吟味すれば日本史探究の知識でも正解できただろう。(33)(34)、(35)(36)、(39)(40)は難。	難
II	語句選択 正誤判定 年代整序	近現代の政党政治 《史料》	(47)(48)は消去法で正解したい。(49)(50)は慶應義塾大学法学部志望者ならば正解したい。(57)(58)の選択肢の表現が曖昧なので、やや難。(63)(64)は史料を読み取れば正解できただろう。(69)(70)は[04]と[05]で迷ったかもしれない。(73)(74)は政党助成制度の創設時期(または該当内閣)を知らなければできないため難。(75)(76)は[01]と[02]まで絞って正解したい。(79)(80)は難。	標準
III	論述	真言宗と朝廷との関係 《史料》	史料BやEから空海を想起することができる。真言宗(密教)の特徴や、朝廷との関係が要求されている。内容としては史料を読み取れば書けただろうが、200字という字数の多さに戸惑ったかもしれない。	標準
IV	論述	享保期における米価と諸色の物価対策 《史料》	論述の要求は明確だったが、求められている内容が多く、さらに史料の読み取りが含まれており、やや難。また、280字という字数が難度を少し上げている。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>詳細な知識を問う問題が多いが、基礎的な設問の完答をめざして、教科書を丁寧に学習することが何よりも大切である。正誤判定問題が多いことに加え、論述が出題されるようになったため、今まで以上に用語の暗記だけでは太刀打ちできなくなった。字数も200字レベルで、練習をしていないとすぐに書くことは難しいだろう。また、並べ替えも出題されるので、時の政権者や時期などに注意しながら勉強しよう。また、未見史料と関連設問からなる法学部特有の出題形式にも対応できるようにしておきたい。歴史総合からの出題はあるものの、まずは日本史探究の分野で得点を確保したい。</p>
---